

# 美浜町こどものあそび場 整備基本計画

【令和6年度～令和15年度】



福井県美浜町

## <目 次>

<b>第1章 基本計画について</b>	<b>……2</b>
(1) 計画策定の趣旨	……2
(2) あそび場を取り巻く環境	……2
(3) 基本計画の位置づけ	……3
<b>第2章 美浜町の現状と課題</b>	<b>……4</b>
(1) 町内あそび場の現状	……4
(2) アンケート調査等の結果からみる現状	……5
(3) 美浜町のあそび場における主な課題等	……9
<b>第3章 あそび場整備の基本方針</b>	<b>……10</b>
(1) 基本方針	……10
(2) 基本方針を踏まえた新たなあそび場機能の整備	……11
(3) あそび場整備の方向性	……12
<b>第4章 あそび場整備の推進</b>	<b>……20</b>
(1) 事業化に向けた取組み	……20
(2) 整備スケジュール	……20
<b>(資料編)</b>	<b>……21</b>
(1) 美浜町子ども・子育て会議委員 等	……21
(2) 「こどものあそび場整備事業基本計画」策定の体制	……22
(3) 計画策定に係る経緯	……23
(4) みんなであそび場を考える	……25

# 第1章 基本計画について

## (1) 計画策定の趣旨

美浜で生まれ育つこどもは、「町の宝」です。

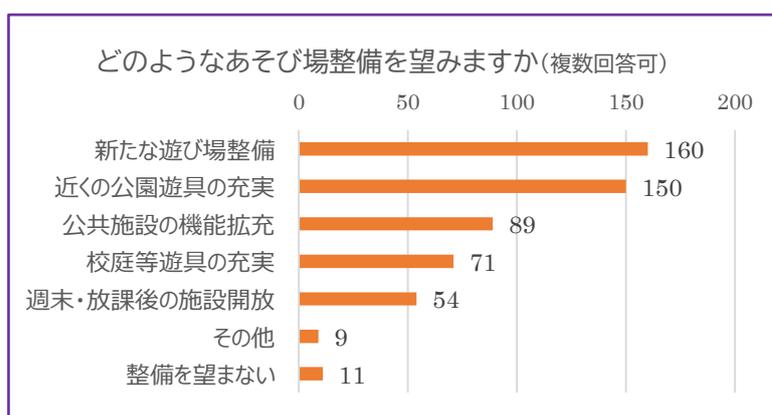
本計画は、第2期美浜町子ども・子育て支援事業計画の基本理念「地域の愛に包まれ、子どもの笑顔が広がるまち みはま」を踏まえ、地域における子育て支援の充実と、こどもたちが夢ある未来に向かってすくすく元気に育つことができる環境づくりに向け、町内のあそび場整備の指針とするものです。

## (2) あそび場を取り巻く環境

町内におけるあそび場整備については、令和元年度に実施した「第2期美浜町子ども・子育て支援事業計画（以下「子ども・子育て計画」という。）」に係る調査においてニーズの高いことが明らかとなりました。そこで、「地域力を活用した親子の交流・学習の場、楽しく遊べる場の提供」を子ども・子育て計画の重点事業として、これまでに総合運動公園にじいるパーク内のふわふわドームの整備や、保育園庭の開放事業等を進めてきました。

近年、少子高齢化や核家族の進行、価値観やライフスタイルの多様化が進む今、地域における支え合いや助け合いの機能が低下しつつあると言われます。そのような中、子育て世代のニーズに応えるとともに、こどもたちが安全に安心して、のびのびあそぶことができるあそび場の重要性は高まっていることから、令和5年2月、子育て世代を対象にあそび場整備についてのご意見等をお聞きする「こどものあそび場整備に係るアンケート調査（以下「アンケート調査」という。）」を実施しました。その結果、小学生以下のお子さんを有する世帯の半数を超える235世帯から回答いただきました。

アンケート調査から、新たなあそび場整備と並び近くの公園遊具の充実を求める声が多いことがわかりました。また既存の施設の充実・開放を求めるご意見も多くありました。一方、少数で



※令和5年2月調査の「こどものあそび場整備に係るアンケート調査」による

はありますが、あそび場整備より他の子育て支援の充実を求めるご意見もいただきました。

そこで、多様化するニーズに対応する上で、目指すべき方向を次のように定めることとします。

## <あそび場整備の方向性>

### ① あそび場整備基本計画策定により、まち全体をあそび場に！

アンケート結果からあそび場について多様なニーズがあることがわかりました。これらのニーズ・ご意見を踏まえた上で、既存施設の活用を図るとともに、町全域のあそび場整備のあり方を検討するため、「美浜町こどものあそび場整備基本計画」を策定します。

### ② 地域住民みんなで子育てを支え合う気運の醸成！

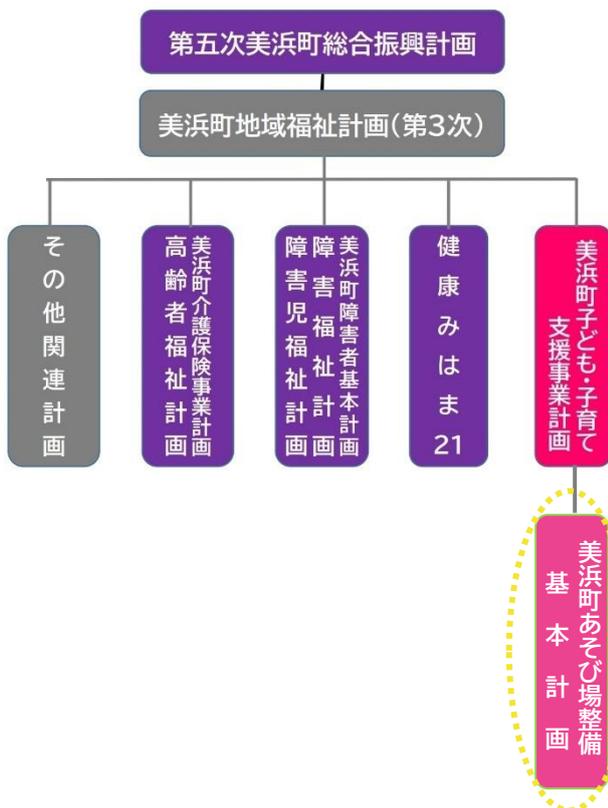
地域社会とのつながりが希薄化する中で、安心して子育てができる環境を整備する上では、こどものあそび場をはじめ、安全・安心なこどもの居場所が求められています。

これらのニーズに対応するには、地域力を活かし、地域みんなで子育てを支え合うことが大切です。

### ③ あそび場やイベント等の情報をまとめて発信！

町内の様々な施設とその取組み等の周知が十分でない現状を踏まえ、あそび場やイベント等の情報をわかりやすく集約し、発信します。

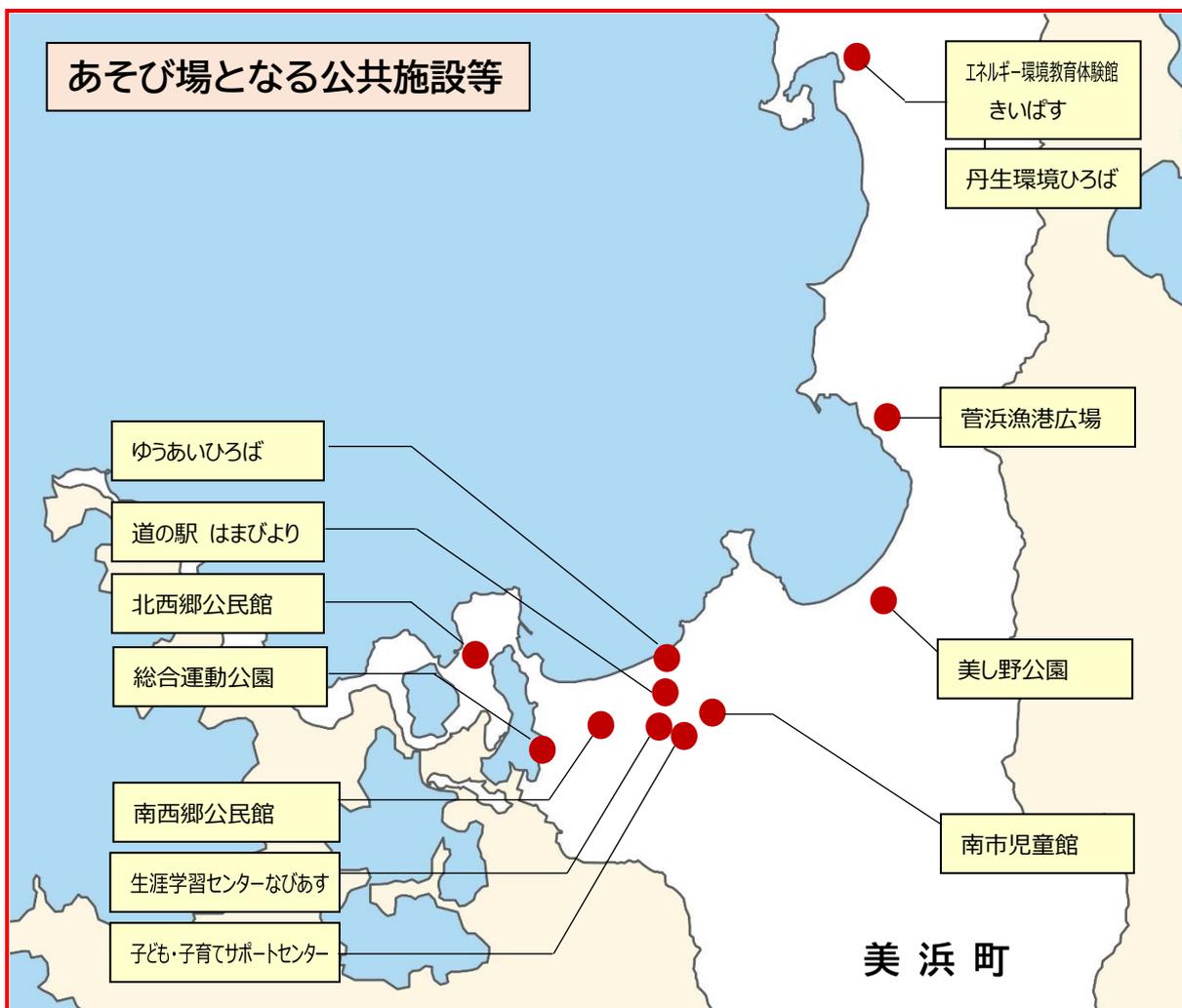
## (3) 計画の位置づけ



本計画の策定にあたっては、上位計画である「第五次美浜町総合振興計画」や「美浜町子ども・子育て支援事業計画」をはじめ、地域福祉計画やその他の関連計画との整合性を図ります。

## 第2章 美浜町の現状と課題

### (1) 町内あそび場の現状



町内におけるこどものあそび場や居場所となる公共施設等は次のとおりです。近所の公園を除き、あそび場等への移動は、保護者による送迎が中心となっています。

内外の別	種類	内容等
屋外	総合運動公園	ふわふわドームやスプリング遊具、すべり台があります。
	公園、広場	遊具があります。
	小学校庭・保育園庭	遊具があります。園庭は月に1回開放しています。
屋内外	道の駅「はまびより」	遊具や玩具で遊べるほか、託児ルームもあります。
	子ども・子育てサポートセンター	子育てイベントを開催。玩具や遊具で遊べます。
	エネルギー環境教育体験館 きいばす	バッテリーカーやインモーションがあります。(有料)
屋内	公民館	分館を含めると町内に6か所あります。
	児童館	町内に1か所あります。
	生涯学習センターなびあす	イベントや講座を開催。図書館併設。

## (2) アンケート調査等の結果からみる現状

### ① あそび場に係るアンケート調査

【調査期間】 令和5年2月1日～2月28日

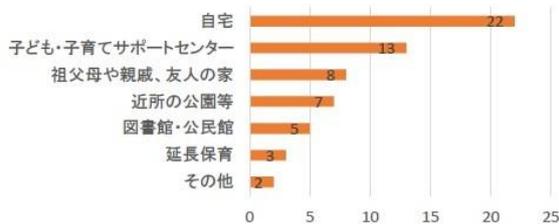
【調査対象】 町内の子育て世帯 ※235世帯回答

(子ども・子育てサポートセンター利用者・町内保育園利用世帯・小学生の世帯)

### ■年齢別あそび場の状況(0～2歳)～アンケート結果より～

あそび場整備についてのアンケート調査より、0～2歳のお子さんのあそびの実態を集計し、グラフ化したものです。(対象者数：26人)  
 Q1・3によると、「自宅」が最も多く、「子ども・子育てサポートセンター」「祖父母や親戚、友人の家」が続きます。  
 「子ども・子育てサポートセンター」が休館となる休日には、「ショッピングセンター」の占める割合が高くなります。

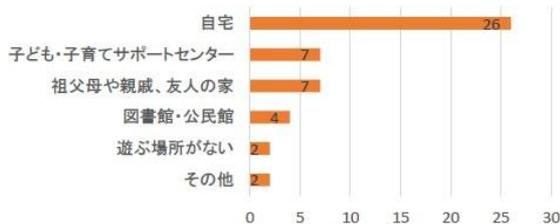
Q1) 平日どこで遊ばれますか(複数回答可)



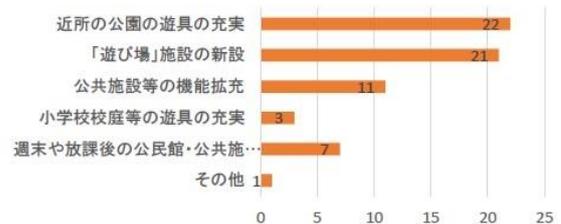
Q2) 休日どこで遊ばれますか(複数回答可)



Q3) 荒天時にどこで遊ばれますか(複数回答可)



Q4) どのような整備を望みますか(複数回答可)



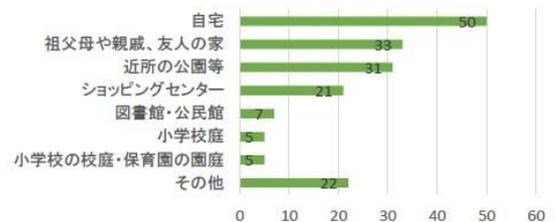
### ■年齢別あそび場の状況(3～6歳)～アンケート結果より～

あそび場整備についてのアンケート調査より、3～6歳のお子さんのあそびの実態を集計し、グラフ化したものです。(対象者数：54人)  
 Q1・2によると、あそび場として「自宅」が最も多数を占めていますが、続いて「近所の公園等」「祖父母や親戚、友人の家」と回答しており、3～6歳のお子さんについては、平日や休日に近所の公園を利用する方が多いのが特徴です。

Q1) 平日どこで遊ばれますか(複数回答可)



Q2) 休日どこで遊ばれますか(複数回答可)



Q3) 荒天時にどこで遊ばれますか(複数回答可)



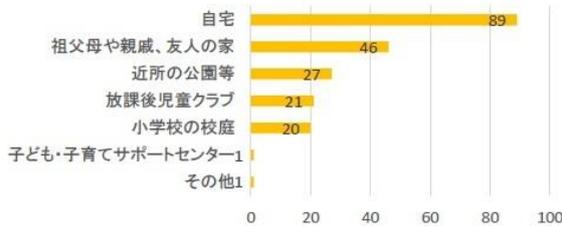
Q4) どのような整備を望みますか(複数回答可)



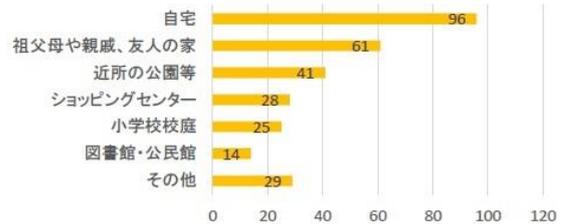
## ■ 年齢別あそび場の状況(7-12歳)～アンケート結果より～

あそび場整備についてのアンケート調査より、7～12歳のお子さんのあそびの実態を集計し、グラフ化したものです。(対象者数：104人)  
 Q1-3によると、あそび場として「自宅」と答えた方は多数を占め、続いて半数の方が「祖父母や親戚、友人の家」と回答しています。  
 グラフからは、小学校校庭の利用者が一定数いることがわかります。

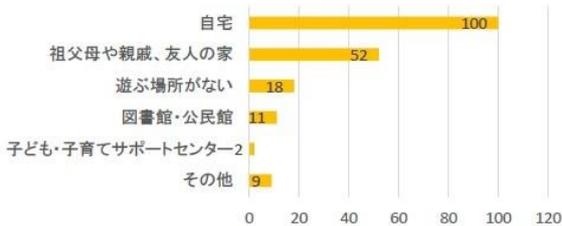
Q1) 平日どこで遊びますか(複数回答可)



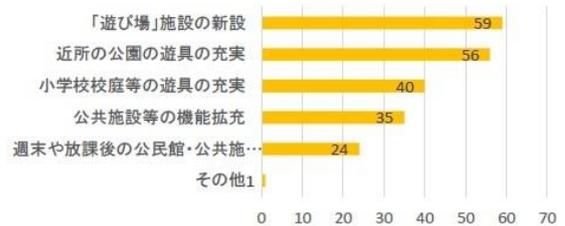
Q2) 休日どこで遊びますか(複数回答可)



Q3) 悪天候時にどこで遊びますか(複数回答可)



Q4) どのような整備を望みますか(複数回答可)



多くの子どもが通常「自宅」をあそび場としていますが、0歳から2歳の子どもは「子ども・子育てサポートセンター」を、3歳から12歳の子どもは「近所の公園」をよく利用していることがわかります。小学生になると校庭であそぶ機会がふえることから、校庭遊具の充実を望む声が多く見られます。

## ■ 町内施設の利用の状況とその課題 ～アンケートの声より～

アンケート調査によると、町内の施設で最もよく利用されているのは「総合運動公園(にじいろパーク)・ふれあい広場」であり、続いて「図書館・公民館」「校庭や園庭」「子ども・子育てサポートセンター」「生涯学習センターなびあす」「エネルギー環境教育体験館きいばす」となっています。  
 その中でも、特ににじいろパーク内ふわふわドームには多くのご意見・ご要望をお寄せいただきました。

### 課題



**総合運動公園 (にじいろパーク)** (西郷地区) 【遊具】 特に夏と冬はふわふわドームの利用環境が厳しい。雨天時に利用できない。幼児対象の遊具や大型遊具など、もっと遊具を充実させてほしい。安全性の観点から遊具利用のルールの徹底が必要ではないか。

【トイレ】 屋外トイレが使いにくい。  
 【休憩】 子どもを見守るための屋根付きベンチがほしい。

**子ども・子育てサポートセンター** (西郷地区) 【対象】 幼児対象であり、遊具を使ったあそびができない。  
 【開館】 日曜日に利用できない。

**小学校 校庭 保育園 園庭 など** (町内全域) 【施設】 体育館を開放してほしい。  
 【周知】 保育園の園庭開放を知らなかった。

**地区公民館** (西郷・耳地区) 【開放】 公民館を自由に使えるよう、開放してほしい。

**近くの公園 (区・自治会公園)** (町内全域) 【遊具】 各公園の遊具を増やしてほしい。小学生対象の遊具がない。安全性の観点から遊具の点検をしっかりとしてほしい。

## ② あそび場に関するワークショップ



ワークショップの様子

アンケート調査だけでなく、子育て世代のリアルな声をお聞きする場として、町のあそび場の課題やあそび場に求める機能を考えるワークショップ（全2回）を開催しました。ワークショップには保育園に通う園児の保護者やPTAなどの関係者に参加していただきました。

1回目のワークショップでは町全体を俯瞰してあそび場を考えるための話し合いを、2回目のワークショップでは屋内のあそび場づくりをテーマとした話し合いを行いました。

参加者からは、「美しい自然を体感できるあそび場がほしい」「思いきり身体を動かせる場所がほしい」といったあそび場に関する意見から、「子ども用のトイレやロッカー、カフェ等快適な空間づくりが必要」といったあそび場に必要な設備等に関する意見が出されました。

2回のワークショップを通じて、あそび場整備の方向性について参加者同士がイメージを共有することができました。

【開催日時】 1回目：令和6年1月30日（火）19:00～20:30

2回目：令和6年2月20日（火）19:00～20:30

【開催場所】美浜町役場3階 正庁

【参加者】子育て世代、関係者等（延35人）

### <ワークショップの全体の流れ>

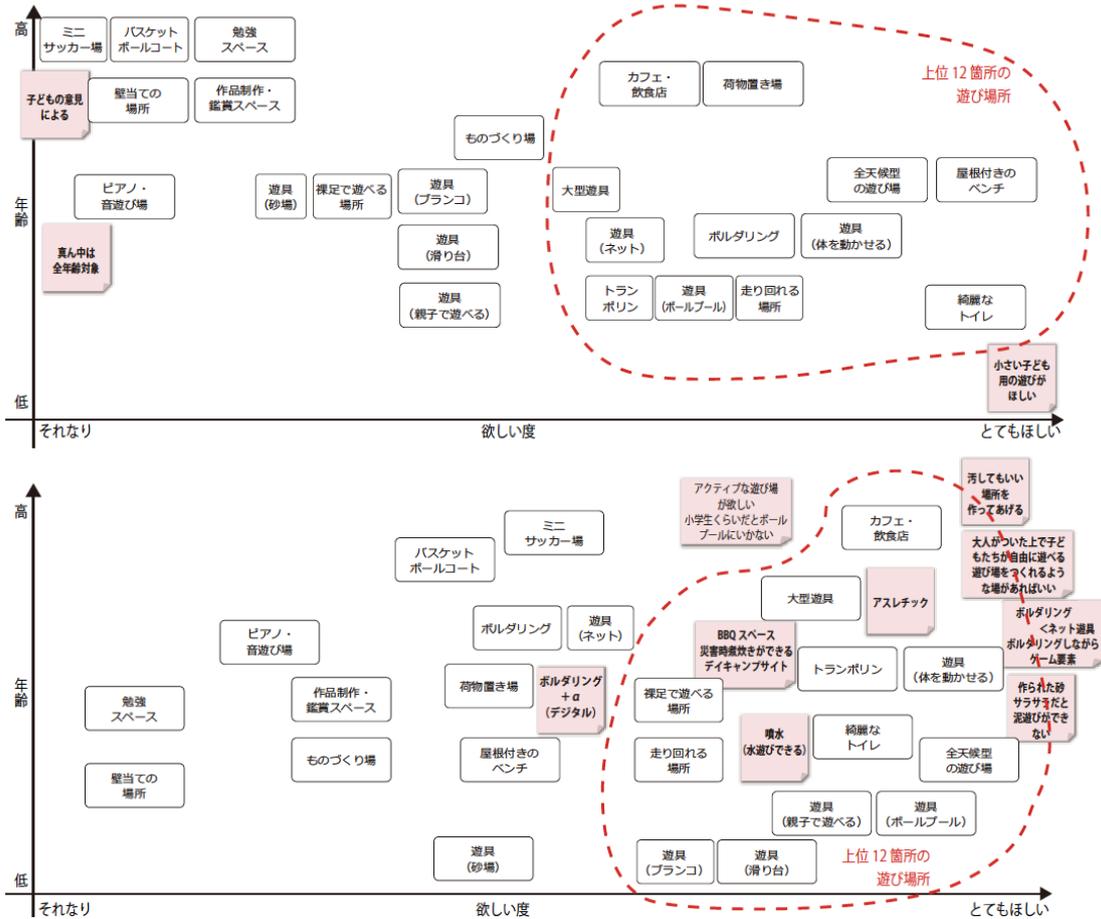
あそび場に係るアンケート結果を踏まえ、美浜町にどのようなあそび場が必要かを話し合いました。

- ①アンケート調査より、24の「あそび場」・「遊具」・「もの」を抽出しました。  
（設問「子どものあそび場に係るご意見・ご要望」にて、意見数が多かった場所を抽出）
- ②この24の「あそび場」・「遊具」・「もの」についてワークショップで話し合い、欲しいと思う度合いや対象年齢を考慮して14の「あそび場」・「遊具」・「もの」に整備候補を絞りました。
- ③屋内あそび場をつくと仮定し、14の「あそび場」・「遊具」・「もの」の配置を検討しました。



1 回目のワークショップの話し合い

美浜町に欲しいあそび場を考えるワーク ブロックを使ってあそび場をデザインするワーク



住民に行ったアンケートの結果から抽出した 24 の「あそび場」や「遊具」・「もの」について、必要な順に並べてもらうワークを行いました。この図の左右は欲しいと思う度合いを表しており、右に行くほど欲しいものとなります。縦軸は想定される対象の年齢を表しており、上にあるほど年齢が高い（小学生高学年や中学生）ことを表します。

美浜町に欲しいあそび場を考えるワーク（上部 A 班、下部 B 班）

【ワークショップで得られた主な意見】

●美浜のあそび場について（良い点と課題）

- ・自然が豊富にあり、田んぼや竹藪、用水路などで遊びができる。裸足への抵抗が少ない。
- ・雨や雪、荒天時に利用できる屋内あそび場がない。公園等の遊具が少ない。

●町のあそび場に求めるものとは（優先度の高いもの）

- ・トランポリンやボルダリング、ネット遊具といった身体を動かせる遊具や、思いきり走り回れる場所がほしい
- ・全天候型のあそび場がほしい。
- ・快適に使える子ども用トイレや手洗い場、ロッカーが必要。こどもを見守る上でカフェやベンチ等がほしい
- ・コンパクトな空間でもこどもが安全に遊べるように空間的な配慮（ゾーニング）が必要。

### (3) 美浜町のあそび場における主な課題

#### <町内あそび場の主な課題と今後の対応>

アンケート調査結果やあそび場ワークショップ等を踏まえ、町内のあそび場における主な課題を整理しました。

#### ① 天候に左右されずあそべる場所がない

天候が悪い日のあそび場としてほとんどが「自宅」または「親戚・友人の家」と回答しています。雨や曇りの日の多い北陸特有の天気に加え、冬は雪、夏も近年は酷暑となっています。天候に左右されないこどものあそび場や居場所について、既存施設の活用を含めた検討が必要です。

#### ② 思いきり体を動かせる場所がない

こども達が成長に合わせて思いきり体を動かせる場所がないという声を多くいただきました。体を動かしてあそぶことは、こどもの成長・発達にとって大きな意義があります。町内の既存施設の開放等について検討していく必要がありますが、あわせてこどもの安全が確保できるよう空間づくり（ゾーニング）の配慮が必要です。

#### ③ 美浜の豊かな自然を楽しめる場所(機会)がない

核家族化が進み、地域とのつながりが希薄化する中で、美しいロケーション等、美浜を体感できる場所がないというご意見をいただきました。

美しい自然、里山の風景、昆虫等、都市部では味わえない体験が当たり前にあることが町の強みです。あそび場整備においては、美浜らしさという視点からココ（美浜）にしかない価値を発信することが大切です。

#### ④ こども用トイレや休憩用ベンチ等が整備されていない

こども達がのびのびあそぶには、快適なトイレ（子ども用、多目的）、おむつ替えスペース、授乳室やロッカーなどの設備が必要ですが、町内のあそび場には、まだ十分に備わっていない状況です。

こどもだけではなく大人も快適に過ごせるように、またインクルーシブの視点等から設備等を見直すことで、多世代の集う場、交流やコミュニケーションの場としての機能が期待されます。

#### ⑤ 近くの公園に遊具が少なく、また安全性に不安がある

アンケート調査において「近所の公園遊具の充実」を望んでいるという回答が多くある一方、遊具点検等の安全に対する不安を訴えるご意見もありました。

こどもの年齢や発達段階に応じてあそべる遊具は変わります。また、みんなが楽しくあそぶ上では、インクルーシブという視点を含めた遊具の充実を考えていくことが必要です。

近年、遊具による事故を未然に防ぐため、遊具を撤去する公園が見られます。身近な場所で安心してあそぶ上で、遊具の充実や点検・修理の仕組みづくりの検討が必要です。

## 第3章 あそび場整備の基本方針

### (1) 基本方針

町のあそび場における課題や様々なニーズを踏まえ、町のこどものあそび場整備における基本方針は次のとおりとします。

#### <基本方針 1>

#### 居心地のよい 空間づくり

- ・ 安全面に配慮し、安心してあそべる場所に  
(インクルーシブ、トイレ等の設備)
- ・ 何度も訪れたいくなるような運営の工夫  
(イベント、多世代が参画できる仕掛け 等)
- ・ 多世代が集い、つながりやコミュニケーションを生む空間づくり  
(美しいデザイン、カフェ 等)
- ・ まちの施設が子どもや子育て世代の居場所になる  
(利用しやすい環境整備と様々な配慮)

#### <基本方針 2>

#### 美浜を体感

- ・ 海や山、川、湖、雪など、豊かな自然を体感できるあそび場づくり
- ・ あそびを通して、美浜の魅力を知ることができる仕掛けづくり
- ・ 地域力を活かし地域みんなで子育てを支えあう気運の醸成

#### <基本方針 3>

#### あそびが広がる、 そこに「学び」がある

- ・ あそびの選択肢がふえる  
(天候に関わらず遊ぶことのできる場所 等)
- ・ 新しい価値がある、新たな発見がある  
(デジタル技術×従来のカラダを使うあそび 等)
- ・ あそびにおけるワクワク感を育む
- ・ 子どもが自分たちで考え、あそびから学ぶことのできる場所

## (2) 基本方針を踏まえた新たなあそび場機能の整備

まち全体をあそび場として考える上で、コストを最小限に抑えつつ魅力ある整備を進める観点から、原則は既存施設の活用を図ることとし、基本方針を踏まえ、次のとおり新たなあそび場機能の整備を検討します。

### ○ 天候に左右されないあそび場づくり

- ・ 町内にある既存施設を改修し、天候に左右されないあそび場整備
- ・ 思いきり身体を動かせるあそび場として施設を開放

### ○ 美浜らしさを体感できるあそび場づくり

- ・ 小倉山山頂公園や新庄エリアなど、山の魅力を体感できるあそび場
- ・ 「西海岸ゾーン」と呼ばれる東地区の海岸風景を活かしたあそび場
- ・ あそびを通して、エネルギー・環境について学ぶことができるあそび場
- ・ 豊かな自然や里の暮らし、人のぬくもり等 美浜らしさを体感できるあそび場

### ○ 地域力を活かしたあそび場づくり

- ・ 集落や自治会、地域住民みなでとともに、遊具の充実や安全管理のしくみを検討
- ・ 地域の伝承あそびや美浜の自然等 体験の機会の創出
- ・ 地域の様々な魅力をあそび場に集約
- ・ 小学校校庭遊具のリフレッシュ

### ○ 「あそび場」の可能性を広げる取組

- ・ デジタル技術等を活用した新たなあそびの創出
- ・ トイレやロッカー等、こどもや子育て世代に配慮した空間
- ・ 自動販売機やカフェ、休憩スペース等、居心地のよい空間
- ・ あらゆる世代が楽しめる空間（行きたくなる場所）
- ・ みんなが楽しくあそべるようなインクルーシブ遊具の設置
- ・ イベントやあそび場情報の発信強化



まち全体をあそび場と捉え、地域の特性を活かしながら屋外・屋内のあそび場整備を検討します。

## <エリア別のあそび場整備の方向性>

基本方針を踏まえ、「美浜らしさ」という観点からあそび場としての魅力を検討する中で、地域の魅力を活かした既存設備と、あそび場としての機能追加、必要な改善等を進めていきます。

### ① スポーツや健康をテーマに多世代が集う湖のエリア

<地域の強み>

- ・三方五湖の美しい景観
- ・総合運動公園（にじいろパーク）
- ・健康楽膳拠点施設こるぱ
- ・園芸体験施設「園芸 LABO の丘」
- ・レイクセンター

レイクセンター

北西郷公民館

総合運動公園

道の駅 はまびより

生涯学習センターなびあす

子ども・子育てサポートセンター  
保健福祉センターはあとびあ

### ② 美浜駅からはあとびあまで周遊できるにぎわいゾーン

<地域の強み>

- ・道の駅「はまびより」
- ・生涯学習センターなびあす
- ・子ども・子育てサポートセンター（保健福祉センターはあとびあ）
- ・周遊できる にぎわいゾーン

### ③ 美浜の山を体感できるあそび場

<地域の強み>

- ・小倉山山頂公園
- ・新庄山里エリア（溪流の里・カフェ MIROKU 等）
- ・若狭国吉城址
- ・美浜の山を体感できる場所

若狭国吉城址

小倉山山頂公園

エネルギー環境教育体験館  
きいばす

### ④ 美しい夕日と海を体感。あそびを通してエネルギー環境を学ぶエリア

<地域の強み>

- ・エネルギー環境教育体験館  
きいばす
- ・夕日の美しい海岸沿いの公園（水晶浜、菅浜漁港広場・丹生環境広場 など）
- ・民宿やカフェ

### ⑤ 町全体をあそび場に！

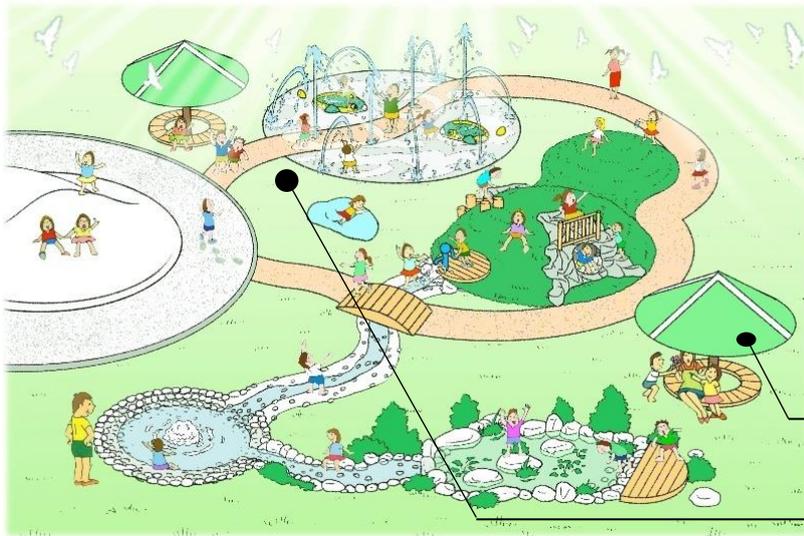
- ・イベント・あそび場の情報発信強化
- ・集落・自治会との協働による遊具の充実と安全性向上のための仕組
- ・伝承あそびや自然体験の機会の創出
- ・体育館等施設の開放 等

## ① 「スポーツ」「健康」をテーマに多世代が集う湖のエリア

久々子湖に面した総合運動公園を中心とするこのエリアは、大型遊具やふわふわドームのほか、湖と緑を堪能できるウォーキングコースや健康楽膳拠点施設こるばなど「スポーツ」や「健康」をテーマに多世代が集う拠点です。子どもや子育て世代、若者や高齢者など、誰にとっても居心地がよく、楽しく活動できるとともに、多世代そして多様な人々が交流できる空間づくりを目指します。

美しい景観の中で多世代が集い交流する総合運動公園(イメージ)

### <地域の強み>



● 三方五湖の美しい景観

● 総合運動公園(にじいろパーク)

● 健康楽膳拠点施設 こるば

● 園芸体験施設「園芸 LABO の丘」

● レイクセンター

・子どもたちを安心して見守ることのできる屋根つきベンチ

・芝生ひろばや水に親しめる環境づくりなど「緑」と「水」に囲まれるのびのびあそべる空間

#### <基本方針>

#### <事業や取組みのイメージ(例示)>

#### 居心地のよい空間づくり

- ・「水」と「緑」の美しい環境でみんながのびのび過ごせる空間づくりを目指し、総合運動公園内の整備を進めます。(子どもが使いやすいトイレの改修/屋根つきベンチの設置/水辺環境の整備 等)
- ・健康楽膳拠点施設こるば等との連携により、ゆっくり過ごせる憩いの場を目指します。(提供する飲食メニューの検討・利用しやすい仕組みづくり/多世代の交流を生む仕掛け 等)
- ・総合運動公園・北西郷公民館に芝生ひろばを整備します。

#### 美浜を体感

- ・「水」と「緑」の美しい環境でみんながのびのび過ごせる空間づくりを目指し、総合運動公園内の整備を進めます。(再掲)
- ・美しい風景の中で子どもが思いきりカラダを動かせるよう総合運動公園の遊具の充実を図ります。
- ・레이크センターや園芸 LABO の丘、公民館等と連携し、様々な体験機会の充実を図ります。(湖や農業等の体験プログラム、地域の伝承あそび 等)

#### あそびが広がる、そこに「学び」がある

- ・레이크センターや園芸 LABO の丘、公民館等と連携し、様々な体験機会の充実を図ります。(再掲)
- ・総合体育館アリーナや北西郷公民館体育館等の弾力的な運用(開放)により、子どもたちが思いきりカラダを動かしてあそべる場をつくれます。
- ・あそびから自然への関心・興味を高めるきっかけづくりとして、自然体験プログラムの実施や五感を使って自然を体験できる道具等を準備し貸出します。

天候に左右されないあそび場づくり

美浜らしさを体感できるあそび場づくり

地域力を活かしたあそび場づくり

「あそび場」の可能性を広げる取組

## ② 美浜駅からはあとぴあまで 周遊できるにぎわいゾーン

JR 美浜駅から道の駅はまびよりを経由して、生涯学習センターなびあす、保健福祉センターはあとぴあまでの空間は、公共交通の拠点であるとともに、人々が回遊する「にぎわいゾーン」です。このエリアには町の子育て拠点である子ども・子育てサポートセンターのほか、あそび場（屋内・屋外）、お子さんの一時預かり施設、芸術文化の体験拠点や小中学生対象の公設塾があります。そこで各施設の一層の連携を図るとともに、はあとぴあにインクルーシブの視点でのあそび場や低年齢のお子さんのあそび場機能の拡充を図ることで、子ども・子育てサポートセンターを中心として、こどもの健やかな成長を促し、安心して子育てできる空間づくりを目指します。

### ● こどもの成長に合わせたあそび場・はあとぴあ(イメージ)



### <地域の強み>

- 道の駅「はまびより」
- 生涯学習センターなびあす
- 子ども・子育てサポートセンター（保健福祉センター はあとぴあ）
- 若狭美浜 HAMABERRY
- 公設塾「放課後教室 サン」

親子であそべる遊具や、インクルーシブ遊具など屋内だけでなく、リハコートや屋外を含めたあそび場

#### <基本方針>

#### <事業や取組みのイメージ（例示）>

居心地のよい  
空間づくり

- ・リハコートや屋外を含めたはあとぴあのあそび場機能の強化と、子育て世代にとって居心地のよい空間づくりを進めます。
- ・美浜駅や道の駅周辺のカフェ、はあとぴあ内ボランティア喫茶との連携を図ります。
- ・子ども・子育てサポートセンターの相談機能の強化とともに、あそび場との連携を図ることで、安心して子育てできるまちづくりを進めます。

美浜を体感

- ・周遊できるにぎわいゾーンという面としてあそび場の充実を図ります。
- ・若狭美浜 HAMABERRY でのいちごの摘み取り体験、放課後教室サンの町の課題探求プログラム、生涯学習センターなびあすの芸術文化プログラム等、町独自のプログラム等の一層の充実を図ります。

あそびが広がる、  
そこに「学び」がある

- ・はあとホールの弾力的な運用（開放）により、子どもたちが思いきりカラダを動かしてあそべる場をつくります。
- ・若狭美浜 HAMABERRY でのいちごの摘み取り体験、放課後教室サンの町の課題探求プログラム、生涯学習センターなびあすの芸術文化プログラム等、町独自のプログラム等の一層の充実を図ります。（再掲）

天候に左右されない  
あそび場づくり

美浜らしさを体感で  
きるあそび場づくり

地域力を活かした  
あそび場づくり

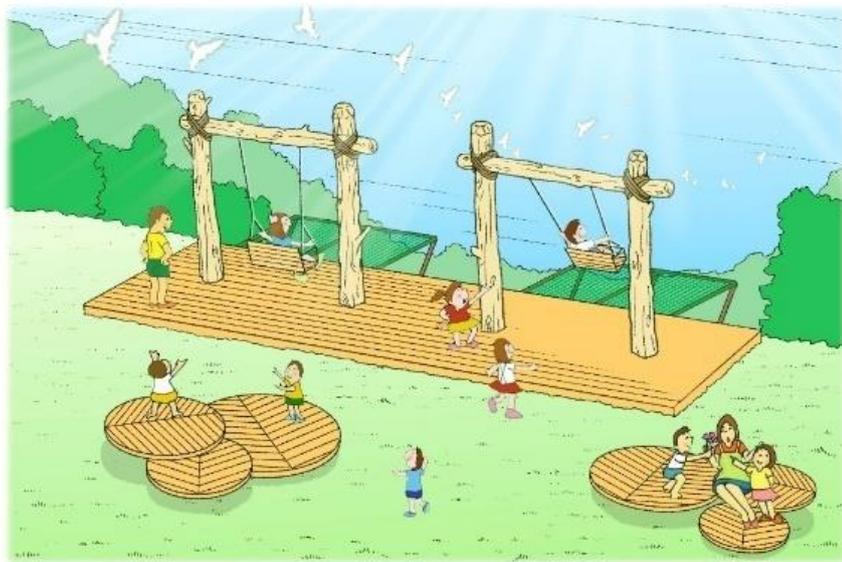
「あそび場」の可能性  
を広げる取組

### ③ふるさとの山を体感できるあそび場

佐柿～麻生間より、車や徒歩で行くことができる小倉山山頂は、かつて国吉城の砦があったとされ、美浜の里が一望できる美しい場所で、春には桜に彩られます。滋賀県との境に位置する新庄には、ブナの原生林や屏風ヶ滝といった美しい自然と、それを楽しむ溪流の里やカフェ、自然体験館等があります。また、佐柿には戦国時代の山城として約450年前に築かれ、境目の城として越前朝倉氏の侵攻を撃退し続けた国吉城址があります。

子どもたちがあそびを通してふるさとの豊かな自然や歴史を体感できるよう、美浜の「山」をあそび場として整備します。

#### ●子どもたちが全身で自然を楽しむ小倉山山頂公園(イメージ)



#### <地域の強み>

- 小倉山山頂公園
- 新庄山里エリア(溪流の里)
- 若狭国吉城址
- 自然林の中のトレイル

#### <基本方針>

#### <事業や取組みのイメージ(例示)>

居心地のよい  
空間づくり

- ・小倉山山頂に展望台を整備するとともに、自然を体感できる遊具の設置を進めます。
- ・小倉山山頂公園の駐車場と、小倉会館から頂上へ至る道(階段)の整備を行います。

美浜を体感

- ・小倉山山頂に展望台を整備するとともに、自然を体感できる遊具の設置を進めます。(再掲)
- ・植物や昆虫、動物など、豊かな自然を体感できるプログラムを検討します。
- ・国吉城址から小倉山を結ぶプログラム等、ふるさとの歴史と自然を体感できる機会を設けます。
- ・森のさんぽを楽しめるウォーキングコースを整備します。

あそびが広がる、  
そこに「学び」がある

- ・こどもの声を取り入れた遊具等の設置について検討します。
- ・植物や昆虫、動物など、豊かな自然を体感できるプログラムの充実を図ります。(再掲)
- ・国吉城址から小倉山を結ぶプログラム等、ふるさとの歴史と自然を体感できる機会を設けます。(再掲)

天候に左右されない  
あそび場づくり

美浜らしさを体感で  
きるあそび場づくり

地域力を活かした  
あそび場づくり

「あそび場」の可能性  
を広げる取組

## ④ 美しい夕日と海を体感 あそびを通してエネルギー環境を学ぶエリア

水平線に沈む夕日の美しさ。敦賀半島の西側「西海岸ゾーン」と称されるこのエリアには、日本の水浴場 88 選に選ばれた水晶浜をはじめ町の名でもある「美」しい「浜」の景色を体感できるスポットです。魚釣りやキャンプ場、BBQ 施設などもあり、菅浜漁港広場・丹生環境広場には屋外遊具が備えられています。

また、エネルギー環境に特化した様々な体験学習を提供する中で、日々のくらしや地球環境について考える力を養う体験型施設・きいばすのような特徴ある施設があります。

このエリアでは、きいばす体育館を改修し〔エネルギー環境〕×〔デジタル技術〕によってあそび場の新たな価値の創出を目指すとともに、水平線を望む美しい海と夕日を楽しめるスポットをつくります。



▲きいばす体育館のデジタル遊具であそぶ子どもたち(イメージ)

美しい夕景に心を解き放つ(イメージ)▶



### <地域の強み>

- エネルギー環境教育体験館 きいばす
- 夕日の美しい海岸沿いの公園  
(水晶浜、菅浜漁港広場・丹生環境広場 等)
- キャンプ場、釣り堀や広場
- 民宿・カフェ
- 原子力発電所・原子力PRセンター

#### <基本方針>

居心地のよい  
空間づくり

#### <事業や取組みのイメージ(例示)>

- ・きいばすの改修では、ロッカーや休憩場所など子育て世代に配慮した整備を進める一方、多世代が楽しめる空間づくりを行います。
- ・地元の民宿やカフェと連携し、長時間滞在ができるようなエリアづくりを進めます。

## 美浜を体感

- ・きいばす体育館を改修し、デジタル遊具を導入することで、「自然×エネルギー×デジタル技術」であそび場の新たな可能性を目指します。
- ・エネルギーの最先端プログラムとの連携により、ココにしかない価値を高めます。
- ・丹生環境広場等の地元の観光施設と連携し、キャンプ・釣り・イベント等により地域の魅力を高めます。
- ・水平線を望む美しい海と夕日を楽しめるスポットを整備します。

## あそびが広がる、そこに「学び」がある

- ・きいばす体育館を改修し、デジタル遊具を導入することで、「自然×エネルギー×デジタル技術」であそび場の新たな価値の創出を目指します。（再掲）
- ・エネルギーの最先端プログラムとの連携により、ココにしかない価値を高めます。（再掲）
- ・あそびから自然やエネルギーへの関心・興味を高めるきっかけづくりとして、体験プログラムの実施や五感を使って自然やエネルギーを体験できる道具等を準備し貸出します。

天候に左右されない  
あそび場づくり

美浜らしさを体感で  
きるあそび場づくり

地域力を活かした  
あそび場づくり

「あそび場」の可能性  
を広げる取組

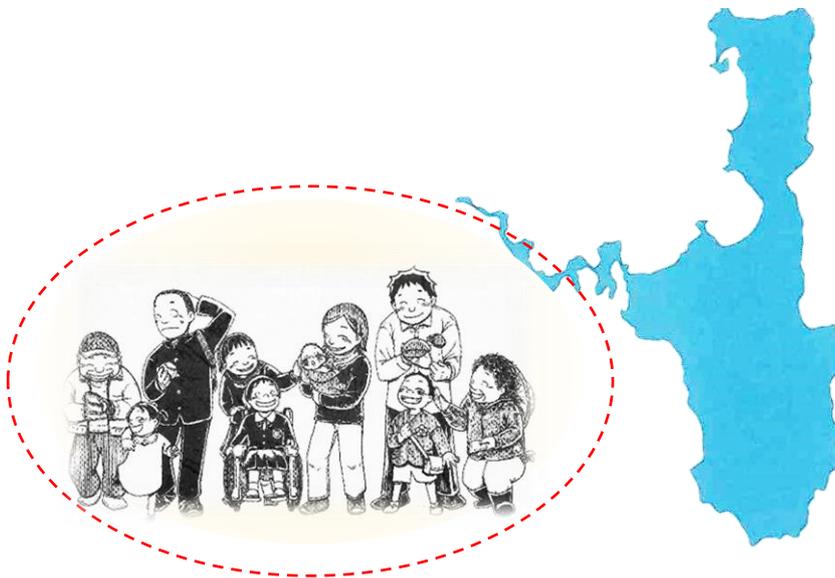
## ⑤ 町全体をあそび場に！～ほっとな空間づくりによるあそび場の創造～

「あそび」という言葉にあるワクワク感。それは子どもだけでなく大人も同じなのかもしれません。

今回のアンケート調査において、町の公共施設等の利用に対するご意見をたくさんいただきました。既にある施設等について「あそび場として使えるかどうか分からない」「ルールづくりが十分ではない」「使いづらい」など、子どもや子育て世代のニーズに町として十分に寄り添えていない現状が浮かびました。

子どもが自分たちで考え、あそびから学ぶことのできる場所。子どもや子育て世代だけでなく、みんなにとって居心地のよい場所。施設の可能性や地域のよりよい未来に向けて、公共施設のあり方について地域住民のみなさんと共に考え、共に「あそび場」整備を進めることが必要です。

「地域の愛に包まれ、子どもの笑顔が広がるまち みはま」の実現に向け、町や施設、集落（自治会）、子育て世代をはじめとした地域住民みんなの手で町全体を「あそび場」に。



### <コンテンツ>

- 集落(自治会)の公園・遊具
- 小学校校庭等 遊具
- 体育館・公民館・児童館 等
- 地域愛・地域とのつながり
- 豊かな景色と遊歩道 等

### ● 既存施設の有効活用と豊かな景色を楽しむ環境づくり

- ・体育館や公民館、児童館等 施設の弾力的な運用（開放）によって、子どもが身近な場所であそべる環境づくり・ルールづくりを進めます。
- ・カラダを動かしたり、自然を体感するための道具等を準備し貸出します。
- ・伝承あそびや自然体験の機会の創出など、地域みんなで子育てを支援する仕組みをつくります。
- ・地域住民のニーズを踏まえた公共施設のマネジメントを進めます。
- ・ウォーキングやサイクリングなど美しい自然や歴史、風景を楽しめるように、地域住民の皆さんとともに遊歩道や道路の安全管理に努めます。

### ● 身近な遊具の充実と安全管理

- ・集落（自治会）や地域住民の皆さんとの協働により、身近な公園遊具の充実を図るとともに、安全性向上のための仕組みをつくります。
- ・地域のあそび場の視点から、小学校校庭遊具の計画的なリフレッシュを進めます。

## ● こどもの居場所づくりの推進

- ・地域における支え合いの中で放課後子ども教室等に取り組みます。
- ・こどもが自分らしく安心して過ごせるように、地域みんなでこどもの視点に立った多様な居場所づくりを進めます。

## ● イベント等発信強化

- ・イベントやあそび場情報の集約と SNS を中心とした情報発信の強化を図ります。
- ・のぼりやサインージ等を活用し、あそび場情報の発信を強化します。
- ・こどもの声を取り入れたイベントの企画等を行います。

<基本方針>

<事業や取組みのイメージ（例示）>

居心地のよい  
空間づくり

- ・こどもの声を取り入れたイベントの企画等を行います。
- ・集落（自治会）や地域住民の皆さんとの協働により、身近な公園遊具の充実を図るとともに、安全性向上のための仕組みをつくります。
- ・地域のあそび場の視点から、小学校校庭遊具の計画的なリフレッシュを進めます。
- ・地域における支え合いの中で放課後子ども教室等に取り組みます。
- ・こどもが自分らしく安心して過ごせるように、地域みんなでこどもの視点に立った多様な居場所づくりを進めます。

美浜を体感

- ・伝承あそびや自然体験の機会の創出など、地域みんなで子育てを支援する仕組みをつくりま
- す。
- ・集落（自治会）や地域住民の皆さんとの協働により、身近な公園遊具の充実を図るととも
- に、安全性向上のための仕組みをつくります。（再掲）
- ・カラダを動かしたり、自然を体感するための道具等を準備し貸出します。
- ・地域における支え合いの中で、放課後子ども教室等に取り組みます。（再掲）
- ・こどもが自分らしく安心して過ごせるように、地域みんなでこどもの視点に立った多様な居場所
- づくりを進めます。（再掲）

あそびが広がる、  
そこに「学び」がある

- ・こどもの声を取り入れたイベントの企画等を行います。（再掲）
- ・体育館や公民館、児童館等 施設の弾力的な運用（開放）によって、こどもが身近な場所
- であそべる環境づくりを進めます。
- ・イベントやあそび場情報の集約と SNS を中心とした情報発信の強化を図ります。
- ・のぼりやサインージ等を活用し、あそび場情報の発信を強化します。

天候に左右されない  
あそび場づくり

美浜らしさを体感で  
きるあそび場づくり

地域力を活かした  
あそび場づくり

「あそび場」の可能性  
を広げる取組

## 第4章 あそび場整備の推進

### (1) 事業化に向けた取組

本計画に基づき、こどもの健やかな成長と魅力的な子育て環境づくりに向けた取組を進めてまいります。

また、事業化にあたっては、上位計画や関連計画との整合性を図りながら、事業の役割や住民ニーズ等から優先度を整理し、段階的整備を含めて検討する一方、中長期の町の財政状況を考慮し、効果的な管理運営のあり方や官民連携の実現性についても考えていきます。

### (2) 整備スケジュール

本計画は、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間といたします。

また、社会情勢やこどもを取り巻く環境、住民ニーズ等の変化を適切に反映するため、適宜見直しを行うものとします。

	R5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
あそび場整備	計画	事業化検討・事業の実施									

#### <事業別スケジュール>

あそび場整備について、項目ごとに細分化し、段階的なスケジュールを表したものは次のとおりです。 ※ 現時点のものであり、今後見直しの可能性があります。

	項目	R5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
天候に左右されないあそび場	屋内型あそび場整備		実施設計	改修工事	供用							
	施設の開放等	段階的に開放(施設や日時等機会の拡充)、道具の貸出等										
美浜らしさを体感できるあそび場	小倉山山頂公園整備		公園整備	遊具設置	供用							
	屋外あそび場環境整備		トイレの改修等、優先順位を整理し、段階的に整備									
地域力を活かしたあそび場	集落公園遊具の安全管理	制度設計	運用開始	※運用状況等により随時見直し								
	小学校庭遊具リフレッシュ		改修	供用	※以後は状況に応じて							
あそび場の可能性を広げる	イベント等発信強化	準備	主にSNSによる情報発信の強化と情報連携									

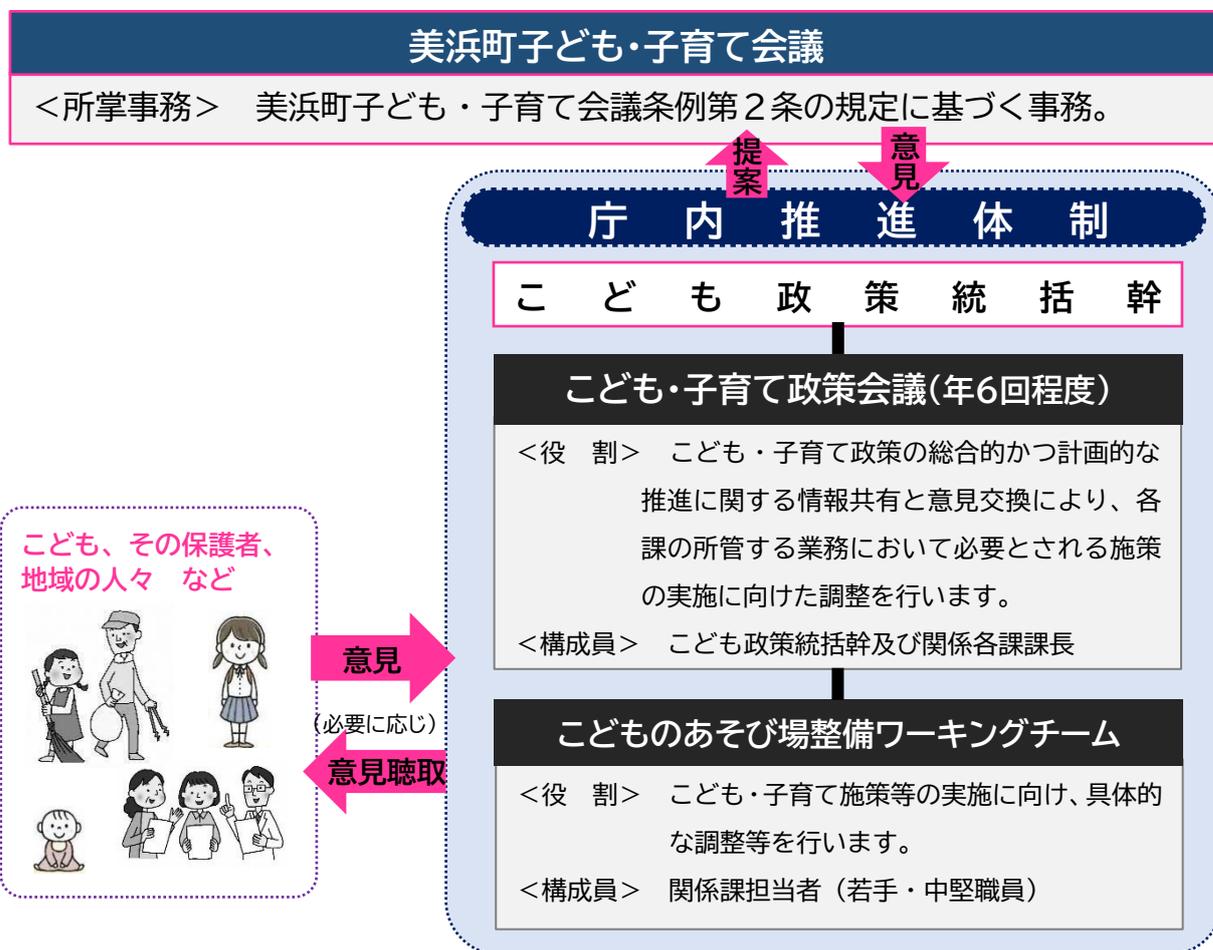
## <資料編>

### (1) 美浜町子ども・子育て会議 委員

	区 分	選出団体・機関	役職	氏 名	備 考
1	会 長	美浜町教育支援センター なないろ	センター長	河合 政志	関係行政機関
2	副会長	美浜町教育委員		高木 和彦	関係行政機関
3	委 員	美浜町保育連絡協議会	会長	山口 浩太	子どもの保護者
4	委 員	美浜町 PTA 連合会	会長	森畑 裕基	子どもの保護者
5	委 員	美浜町校長会	会長	西野 泰弘	学識経験者
6	委 員	美浜町母子保健推進員協議会	会長	河合 美恵子	子育て支援関係者
7	委 員	美浜町育児支援家庭訪問員		真田 晴美	子育て支援関係者
8	委 員	美浜町主任児童委員		森田 美恵子	町長が認める者
9	委 員	美浜町社会福祉協議会	事務局長	熊谷 誓成	町長が認める者
10	委 員	杉の子会		松井 由起子	町長が認める者
11	委 員	嶺南振興局敦賀児童相談所 相談判定課	課長	津田 都	関係行政機関
12	委 員	美浜町園長会	会長	柿谷 由加利	関係行政機関

## (2)「こどものあそび場整備事業基本計画」策定の体制

### < 体制図 >



#### <こども・子育て政策会議>

所属	役職	氏名	所属	役職	氏名
こども政策統括幹		伊藤 善幸	教育総務課	課長	西野 文隆
防災・技術統括幹		山田 将之	生涯学習推進課	課長	渡辺 理佳
まちづくり推進	課長	片山真一郎	健康福祉課	課長	山本 英子

#### <こどものあそび場整備ワーキングチーム>

所属	役職	氏名	所属	役職	氏名
防災・技術統括幹		山田 将之	健康福祉課	主任保健師	幸光 里美
みずうみ保育園	園長	羽尾 庸子	教育総務課	主査	山本 由加
土木建築課	参事	今井 健二	エネルギー政策課	主査	山野 泰孝
まちづくり推進課	課長補佐	山本 知也	こども未来課	主査	森下 秀樹
生涯学習推進課	課長補佐	萩原 敦子			

### (3) 計画策定に係る経緯

#### <子ども・子育て会議>

月日	内容等	
令和5年11月28日	子ども・子育て会議（第1回）	・あそび場整備（意見交換）
令和6年2月22日	子ども・子育て会議（第2回）	・あそび場整備基本計画素案
3月26日	子ども・子育て会議（第3回）	・あそび場整備基本計画素案(最終)

#### <議会等>

月日	内容等	
令和6年2月26日	議会意見交換会	・あそび場整備基本計画（素案）

#### <こども・子育て世代の意見聴取 等>

月日	内容等	
令和5年2/1～28	あそび場に係るアンケート調査	235 世帯回答
令和6年1月19日	ふるさと美浜元気フォーラム	町内小学生によるプロジェクト
1月30日	あそび場ワークショップ（第1回）	町のあそび場のメリット・デメリットを考える 子育て世代の代表・WT 等
2月20日	あそび場ワークショップ（第2回）	どんなあそび場がほしいか考えよう 子育て世代の代表・WT 等
2月23日	みんなでまちづくりプロジェクト 活動報告会	福井大学生が取組んだ小学5年生から高校生までを対象としたまちづくりPJ
2月29日	こどもあそび場ワークショップ①	東児童クラブ（1-2年生）
3月6日	こどもあそび場ワークショップ②	東児童クラブ（3-4年生）
3/18～24	パブリックコメント募集	

#### <政策会議>

月日	内容等	
令和5年4月13日	こども・子育て政策会議（第1回）	・アンケート結果、今後の方向性
6月22日	こども・子育て政策会議（第2回）	・こども・子育て施策の課題と方向性
8月～12月	こどものあそび場に係る視察 (8/21、8/22、9/19、10/4、12/7)	・石川・岐阜・愛知 等 視察
9月27日	こども・子育て政策会議（第3回）	・令和6年度子ども・子育て事業 ・全天候型あそび場に係る基本計画(案)
11月8日	こども・子育て政策会議（第4回）	・あそび場先進地視察報告 ・あそび場整備基本計画の策定

令和6年2月9日	こども・子育て政策会議（第5回）	・あそび場整備基本計画 等
3月13日	こども・子育て政策会議（第6回）	・あそび場整備基本計画 等

<ワーキングチーム>

月日	内 容 等	
令和5年5月25日	ワーキング（第1回）	・全天候型あそび場整備（意見交換）
8月～12月	こどものあそび場に係る視察 (8/21、8/22、9/19、10/4、12/7)	・石川・岐阜・愛知 等 視察
11月14日	ワーキング（第2回）	・町内のあそび場（意見交換）
12月8日	ワーキング（第3回）	・視察に係る情報共有 ・あそび場整備（意見交換）
12月27日	ワーキング（第4回）	・魅力あるあそび場とは ・屋内あそび場
令和6年1月25日	ワーキング（第5回）	・あそび場整備に係る情報共有 ・屋内あそび場
3月8日	ワーキング（第6回）	・あそび場に係る情報共有 ・屋外あそび場

<その他>

月日	内 容 等	
令和5年7月7日	ハード整備に係る打合せ	庁内会議
9月20日	デジタル技術を用いたあそび場（Web）	民間企業
10月30日	あそび場整備に向けた交付金の活用	まちづくり推進課
11月29日	きいばす活用に係る関係課打合せ	エネルギー政策課・まちづくり推進課
令和6年1月12日	あそび場ワークショップへの協力依頼	校長会
2月15日	あそび場整備基金に係る打合せ	まちづくり推進課
	職員研修 「地域に魂を吹き込む ～公共施設のマネジメント～」	（講師） 合同会社まちみらい 寺沢弘樹氏 （参加者） 25人

## (4) みんなであそび場を考える

### ●あそび場に係るアンケート調査

美浜町子どものあそび場整備基本計画策定に取組む契機となった調査です。町内の子育て世帯の皆さまから貴重なご意見を多くいただきました。

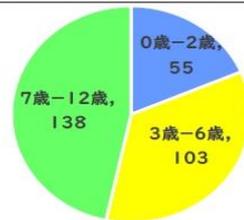
項目	内容等
調査地域	美浜町内全域
調査期間	令和5年2月1日～2月28日
調査対象者	子育て世帯（子どもとその保護者） ○子ども・子育てサポートセンター利用者 ○町内保育園利用世帯・町内小学校児童世帯
回答数	235世帯 【参考】小学6年生までの児童のいる世帯 459世帯（R5.4.1現在）
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者自身（子どもの年齢・地域）</li> <li>●平日の遊び場</li> <li>●遊び場整備の意向</li> <li>●町内で利用する公共施設</li> <li>／ ●悪天候時の遊び場</li> <li>／ ●全天候型遊び場整備に望む内容</li> <li>／ ●自由意見</li> </ul>
調査方法	web方式による

アンケートにご回答いただいた方の属性は次のとおりです。

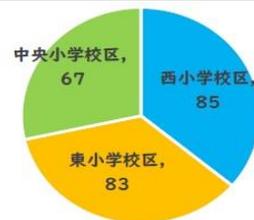
ご回答いただいた方のお子さんの年代や居住地域など、バランスによりことが円グラフより見とれます。

子育てする235世帯の方からご回答いただいたことから、あそび場に対する関心が高いことがわかります。

お子さんの年齢を教えてください。



お住いの地域を教えてください。



### ●ふるさと元気フォーラム「ポスターセッション」より～あそび場の提案～

町内の小学校では交流しながら探究し、学び合う機会として毎年「ふるさと美浜元気フォーラム」を開催しています。令和6年1月19日（金）に総合体育館で開催されたフォーラムでは、3年生は身近な地域のよき探究報告、4年生は福祉の探究・実践報告、5年生は美浜の課題探究過程報告、6年生はポスターセッション（美浜の課題解決アイデア提案）を行いました。



## ふるさと美浜元気フォーラム

- これからの美浜町について、小学生からの提言 -

2024年 **1/19 (金)**

3・4年生の部 9:15 ~ 11:45 (開場 9:00)  
※1部2部ともオープニング及びフィナーレがあります。

5・6年生の部 13:10 ~ 15:30 (開場 13:00)

会場: 美浜町総合運動公園体育館

町内3校の混合グループが対話を重ねながら複数の町の課題を解決するストーリーを考え、来場者とディスカッションを行うポスターセッションにおいて、あそび場をテーマとした発表を紹介します。

#### 観光客が多く・賑わいがある 住みたいと思う美浜町に！

15班  
美浜西小 金森子竜  
美浜中央小 伊藤心優  
美浜東小 山口輝翔



「あそび場・遊具が少ない」「名物へしこ作りの後継者が少ない」という課題解決のため、「へしこちゃんパーク」をつくるという提案。「へしこちゃんパーク」は、美浜の木材を使ったアスレチックやへしこ作り体験ができるほか、おしゃべり自販機で特産品をアピールするという内容でした。

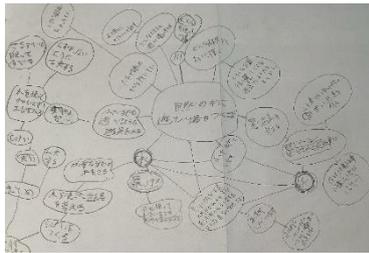
## ●みんなでまちづくりプロジェクトより～子どもたちの遊具の提案～

みはまシナプスプロジェクトの一環として、福井大学国際地域学部の3年生5人が、「美浜をもっと好きになってもらう」を目標に掲げ、2年間かけて町と人とのつながりを創出する「みんなでまちづくりプロジェクト」。学びと体験を通して、地元に対する愛着を育み、地域の課題を発掘、調査することのプロジェクトに、町内小学校5年生から地元高校生まで17人が参加、令和6年2月23日に町役場正庁で活動報告会を行いました。



▲地元企業ジャクエツの監修による遊具の模型

▼みんなで課題解決について考える



**【チーム光合成】**  
自然の中に遊び場をつくる

獣害被害の多い新庄地区  
に設置可能な遊具

鳥獣が嫌う鈴の音が  
鳴るうんていの設置

**【チームすべり台】**  
嶺南に新しい〇〇をつくる

2人同時に滑ることが  
できるすべり台

階段を昇ると  
秘密基地がある

チーム光合成は、町の課題である獣害被害を防ぐ遊具「鳥獣が嫌う鈴の音が鳴るうんてい」を、チームすべり台は、階段を昇ると秘密基地があり、2人が同時に滑ることのできるすべり台を提案しました。メンバーの調査では、小学校高学年が好きな遊具はすべり台とブランコでした。



## ●こどもあそび場ワークショップ

町内あそび場の検討にあたり、こどもの声を聴く機会を設けようと「こどもあそび場ワークショップ」を開催しました。

子どもたちはどんな遊具がほしいかを、みんなで話し合いました。

【開催日時】 ①令和6年2月29日(木)

②令和6年3月6日(水)

※時間はいずれも15:30～16:00

【開催場所】 美浜町東地区放課後児童クラブ

【参加者】 上記児童クラブに通う小学1～4年生 合計16人



▲こどもあそび場ワークショップの様子

## ●町職員研修「地域に魂を吹き込む～公共施設のマネジメント～」

「町全体をあそび場に！」を実現する上で、地域住民のニーズに寄り添う公共施設マネジメントを考えるため、寺沢弘樹氏（合同会社まちみらい代表社員）を講師に迎え、職員研修を開催しました。

講演では、国や多くの自治体等において公共施設マネジメント支援やアドバイザー等を務められた寺沢氏の経験に基づき、地域コンテンツをうまく活用することで、地域の魅力を高め、アカレミライに向けて進むための様々な手法についてお話しいただきました。

【開催日時】 令和6年2月15日（木）

15:00～16:30

【開催場所】 美浜町役場3階 正庁

【参加者】 25人



▲研修風景

## ●あそび場に係る視察（8/21、8/22、9/19、10/4、12/7）

計画策定にあたり、こどものあそび場整備ワーキングチームやこども・子育て政策会議委員を対象とした近隣のあそび場施設を視察しました。各施設において、運営するスタッフの方より多くの示唆をいただきました。

### ●あそび場整備の重要な視点とは（視察後の会議録より）

- ・地域住民を巻き込んだ運営体制
- ・みんなが安心してあそぶことができるような配慮（インクルーシブ）
- ・くり返し訪れたいと思える工夫

### ●魅力的なあそび場の条件とは（視察後の会議録より）

- ・みんなが楽しめて「こどもと一緒にいきたい場所」になること。
- ・デジタル技術や道具等あそびの可能性が広がること。加えて、こどもが自分で考える自由度があること。
- ・景観を含めたデザインの美しさは、様々な交流を促進し、コミュニケーション生み出す可能性がある。



日時	視察先	参加
令和5年8月21日	●工場見学 ジャクエツ本社（敦賀市）	6人
8月22日	●あそびの森 かほくる（石川県かほく市） ●カブッキーランド すくすくひろば（石川県小松市） ●かがにここパーク（石川県加賀市）	9人
9月19日	●リトルプラネット mozo ワンダーシティ（名古屋市西区） ●ういこっちゃん（三重県いなべ市）	4人
10月4日	●高浜町こども家庭センター「kurumu」 ●子育て交流施設 あそびあむ（京都府舞鶴市）	4人
12月7日	●あそびパーク PLUS モレラ岐阜店（岐阜県本巣市） ●遊び創造 labo カガミガハラパークブリッジ（岐阜県各務原市）	8人

